

午後 I 試験

問 1

問 1 では、情報システムの保守業務を題材にして、保守作業を起因とする障害発生のリスクを踏まえたコントロールの設計や監査ポイントについて出題した。

設問 1 は、調査用ツールを使用した影響範囲の調査において、調査漏れを防ぐためのコントロールを問うものである。正答率は低く、影響範囲の調査やライブラリの指定方法に関連しない解答が散見された。

設問 2 は、テスト範囲が不十分なことで不具合が残存するリスクに対するコントロールを問うものである。障害時対応のコントロールなど設問の趣旨に添わない解答も散見されたが、正答率は高かった。

設問 3 は、類似障害の発生を防止するためのコントロールと、それに関連して、障害報告書に記載すべき事項を具体的に問うものである。他システムにも発生し得る障害についての原因や対策を網羅的に調査し、その対応結果を確認することの必要性を認識していれば解答できる問題である。正答率は高かった。

設問 4 は、新規に開発されたシステムを保守担当者が引き継ぐときの留意点について問うものである。ドキュメントの網羅性などの形式的な引継ぎだけではなく、保守を実施する上で必要かつ十分な内容かどうかを保守担当者が確認することの必要性を認識していれば解答できる問題である。“引継ぎ規程どおりに実施し、責任者が承認したか”，といった形式的な内容の解答が多くみられ、正答率は低かった。

問 2

問 2 では、予算管理システムの要件定義段階を題材にして、効果的な情報系システムを構築・運用するための考慮事項や監査ポイントについて出題した。

設問 1 は、権限内での作業を限定するためにシステムに組み込むべきコントロールを問うものである。正答率は高かったが、問題文中の記述に記載されている事項と似たような解答もあった。

設問 2 は、現状のシステムと必要な情報が変更された場合における他システムへの影響を問うものである。会計システムや予算管理システムの信頼性、本文中の記述で記載されている考慮事項に関する解答が散見され、正答率は、低かった。

設問 3 は、効果的な実績情報の利用の面から取込みのタイミングにおいて、どのような点に留意すべきかを問うものである。当該システムの目的と、月次決算確定後の取込みが正確性を重視して決定されたことを認識していれば解答できる問題である。正答率は高かったが、既に検討されている“正確性”と類似した解答も散見された。

設問 4 は、情報系システムを有効に利用する面から、システム導入前に実施する研修について問うものである。X 社では、“広範囲な利用者を対象とした情報系のシステム”は初めてであることを考慮して、システムの操作技能だけでは導入後にシステムが効果的に利用できない可能性があることを認識していれば解答できる問題である。正答率は低かった。

設問 5 は、情報系システムの利用促進を目的としている開発プロジェクトにおいて、機密情報の情報管理が十分に検討されていることを確かめるための要件段階での監査手続を問うものである。操作ログや各社員の権限設定状況のような稼働後でない監査できない解答が散見された。

問 3

問 3 では、個人が所有するモバイル端末の業務利用（以下、BYOD という）の監査について、BYOD 導入プロジェクトによる検討内容を題材として出題した。

設問 1 は、モバイル端末に関する技術の進歩の速さと Z 社が定めるバージョンよりも古い OS を搭載したモバイル端末の使用禁止という二つの事柄から導かれるリスクについて解答を求めたが、ウイルス感染や不正侵入のように、単にセキュリティの脅威を記述した解答が見られた。与えられた事象や状況から、それらに起因するリスクを識別する能力は、監査人にとって不可欠なので、ぜひ身につけてほしい。

設問 2 は、データ保護対策について具体的に述べた解答が多く、正答率が高かった。しかし、モバイル端末にデータを保存しないといった、問題の趣旨に沿わない解答も少なからず見られた。保護の対象が、モバイル端末内に保存されているデータであることを理解していれば正解を導けたはずである。

設問 4 は、システム監査人が、アンケート調査の項目を考慮し、“従業員の満足度が低下し、BYOD 実施率がアンケート調査の結果を下回る可能性がある”と考えた理由を問うたが、効果測定項目の不足及びその他の観点からの解答が散見された。問題文をよく読み、趣旨に沿って解答するよう心がけてほしい。